

OPINION 添乗員は一生の仕事

旅行会社から添乗派遣会社へ転じて約1年。その間にTCSAの役員や事務局、旅行会社やその関連業界、当社に所属する添乗員など添乗派遣業界に深く関わる多くの方々からお話をうかがい現在の添乗員、派遣会社、旅行会社などが直面している諸課題についていろいろ考える機会をいただいております。その中から特に、長年大きなテーマとなっている添乗員の処遇改善が遅々として進まないことと、添乗員の高齢化について私見ではありますが思うところを述べさせていただきます。

添乗員の添乗業務以外の活躍の場を提供

豊富な経験や情報を持ち、高度な技能に裏打ちされた添乗員が提供するサービスに比して、その処遇が著しく低く長年改善が進まない。その大きな原因が、旅行業界の価格競争の激化(いわゆる安売り)であり、そのしわ寄せが添乗員派遣料金の適正化を妨げ、日当などが不当に押さえ込まれ処遇が改まらない。結果、添乗員の就業希望者(特に若年層)が少なく、高齢化が進んでいるという流れで課題が整理されていると思います。

私もこの整理に異を唱えるものではなく、これまでも多くの場で問題提起され、さまざまな議論が重ねられてきている添乗員の処遇改善については、今後も関係する業界が一体となって、その取り組みを着実に進めていく必要があると考えています。しかしながら、この問題の根底にある旅行業界の価格競争が今後なくなることは想像しにくく、また、添乗派遣マーケットの需要が拡大して供給が不足し、派遣料金の上昇を期待することも現実的とは思えません。

このような状況下においては、添乗員の処遇改善に向けてこれまでの取り組みをより一層推進していくことは当然のこととしながら、それと並行して、添乗員が保有している豊富な経験・情報・技能などを添乗業務以外のフィールドで活用し、その労働対価を得ることで、少しでも添乗員の生活の安定を図ることも検討する必要があるのではないのでしょうか？

つまり、派遣会社が派遣先や添乗員と一緒に知恵を出し、添乗員が添乗業務以外で収入を確保できる場を新たに創造し、提供していくということです。現在、添乗業務以外で添乗員が活躍している場は、旅行業務取扱管理者や旅程管理主任者の講習講師、旅行商品造成など一部に限定さ

れていますが、その領域を更に拡大させること。具体的には若手添乗員の教育、旅行説明会や相談会での説明員、専門学校などの教育機関や行政の職業訓練機関、各種団体が企画するさまざまな講座の講師など、既に行なわれているものもありますが、その拡大を業界全体で取り組んでいくことが必要だと考えています。

中高年添乗員の積極的活用と 若手添乗員の確保

添乗員に限らず高齢の勤労者への働く場の提供は、社会の公器として会社の責務と考えなければなりません。TCSAの添乗サービス業高齢者雇用推進委員会でも、多くの議論がなされていますが、添乗は一定の年齢以上でも働ける一生の仕事になりうるものと世間に認知してもらう。それ無くしては、若年層が希望と夢を持ってこの業界の扉を叩くことはありえないでしょう。「一生の仕事としての添乗員」は、その提供サービスに見合った日当や手当による処遇改善、添乗員として培った技能を発揮できる職域の拡大、新たなステージへのワンステップとしての研鑽の場。そして、いつまでも働き続けることができる職業なのだという姿を示すことなくしては実現しないと思っています。

喫緊の大きなテーマである処遇改善。関係各機関の一体となった取り組みとともに、当業界が抱えるさまざまな課題について将来を俯瞰した幅広い視点からの議論を深め、その解決に向けた具体的な取り組みを着実に実行していくことが必要と考えています。

決して簡単なことではありませんが、TCSAの理事就任を機に、微力ながら当業界、ならびに業界の宝物である添乗員の今後のあるべき姿について、積極的に議論に参加し、何らかの貢献ができればと思っております。よろしく願いいたします。



TCSA理事
株式会社ジャッツ
代表取締役社長

石黒 祥隆氏

CONTENTS

OPINION ————— 1

添乗員は一生の仕事
株式会社ジャッツ
代表取締役社長 石黒 祥隆氏

特集 ————— 2

～高齢化する添乗員の戦力化に向けて～
「添乗サービス業高齢者雇用推進ガイドライン」の完成

TOP INTERVIEW ————— 4

(株)ジャッツ所属 専任ツアーコンダクター
茂木 隆一氏をお訪ねして

TCSA REPORT ————— 6

「国内・総合旅行業務取扱管理者」
試験対策講座の実施

TCSA REPORT ————— 7

「旅程管理研修」5月～6月の実施日程のお知らせ
派遣元責任者講習会スケジュール(5月～6月)
2000日添乗員のコソコソ奮闘記 ④④

TCSAだより ————— 8

「25年のあゆみ」発行
会員動向 編集後記

特集!

～高齢化する添乗員の戦力化に向けて～ 「添乗サービス業高齢者雇用 推進ガイドライン」の完成

昨今、年金の支給開始年齢の引き上げなどが盛んに議論されているのは周知の通りです。超高齢化時代を迎えている日本では、2050年には65歳以上の人口が4割に達するとも言われています。そのような状況下、さまざまな産業において、高齢化する従業員の雇用継続をいかに実現させるかが大きな課題になってきています。

添乗サービス業も例外ではなく、添乗員の高齢化は着実に進んでいます。まさに、「高齢に向かっている添乗員の戦力化」という課題に直面しつつあると言えるでしょう。

そうした問題意識から、TCSAでは平成22～23年度の2年間にわたり、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構から「高齢者雇用推進事業」を受託し、「高齢化する添乗員の戦力化」をテーマに各種調査に取り組んできました。

このたび、2年間の取組みの成果として、派遣会社向けの「添乗サービス業高齢者雇用推進ガイドライン」を作成し、2月に東京と大阪で普及啓発セミナーを開催しました。今回のTCSAニュースでは、この事業の取組みのポイントを中心にご紹介します。

添乗サービス業高齢者雇用推進ガイドラインの概要

長らく添乗サービス業で活躍してきたベテラン添乗員は、旅行会社や派遣会社にとって貴重な財産であることは言うまでもありません。しかし、添乗サービス業が誕生して25年。こうしたベテラン添乗員の方々は、年々高齢化しています。高齢化するベテラン添乗員が年を重ねても、元気でいきいきと添乗に取り組み、旅行会社やお客様に喜んでいただける仕事を続けることは私たちの大きな願いでもあります。

この事業では、「高齢化」「ベテラン添乗員」をキーワードに、旅行会社やツアーに参加されたお客様に対して、インタビュー調査を重ねてきました。その結果、次のような意見が相次ぎました。



健康でハツラツとしていれば、添乗員の年齢は関係ない

さらに、ベテラン添乗員に対しては高い期待を示す意見も多数いただいています。以下の声はベテラン添乗員の強みといえるでしょう。



旅行会社・お客様から見たベテラン添乗員の強み



- ・添乗実績のあるベテラン添乗員の存在は大きい。企画1本目のツアーでも何とか収めてきてくれる
- ・ベテラン添乗員の知見と旅程管理力は旅行会社にとっての大きな財産
- ・数々のトラブルをくぐり抜けてきた「たくましさ」と「経験」はとても貴重
- ・知識の豊富さが期待できる。ガイドブックに載っていない現地情報も教えてくれそうで得した気分が味わえる
- ・突発的なトラブルや問題が起きても、安心できる

このような高い評価をいただく一方で、ベテラン添乗員に対する手厳しい声が出たのも事実です。それらの声を整理すると、以下のような内容になります。

旅行会社・お客様から見たベテラン添乗員が陥りやすい弱み

- 横柄な態度や慣れで仕事を流すような仕事振り
- 自分のやり方に固執する、柔軟性に欠ける
- 回りの意見や指摘、お客様からのクレームなどに耳を傾けない
- 頑固さがある
- 「お客様に寄り添う」という意識が低くなりがち



「経験の豊富さ」と「慣れ、自分流への固執」は諸刃の剣ともいえます。ベテラン添乗員の強みを存分に活かし、逆に「陥りやすい弱み」の芽を摘んでいくことが「高齢化するベテラン添乗員の戦力化」をするための大前提となるのではないのでしょうか。

そこで、「高齢者雇用推進ガイドライン」では、次の6つのポイントに焦点を当てることにしました。

- Session1:** 高齢化するベテラン添乗員活用に関する派遣会社としての方針の明示
- Session2:** 添乗スタイルや仕事ぶりの定期点検を通じた添乗のあり方の見直し
- Session3:** 高齢に向かうベテラン添乗員に対する節目ごとの面談の実施
- Session4:** 高齢化したベテラン添乗員の活躍の場を広げるための機会作り
- Session5:** 健康・体力の維持、管理に向けたサポート
- Session6:** 適切な評価やランク付けを目指した制度、システム作りの検討

高齢者雇用推進チェックリスト（簡）

1. 高齢者雇用推進に関する方針を明確にする

2. 高齢者雇用推進に関する体制を整える

3. 高齢者雇用推進に関する教育・研修を実施する

4. 高齢者雇用推進に関する評価・激励を実施する

5. 高齢者雇用推進に関する相談・支援を実施する

6. 高齢者雇用推進に関する情報発信を実施する

7. 高齢者雇用推進に関する関係機関との連携を実施する

8. 高齢者雇用推進に関する継続的な改善を実施する

ガイドラインの中には、「添乗員自身による自己の仕事振りの定期点検が大切」という考えから、左のような「自己の仕事振りチェックリスト」も作成しました。

普及啓発セミナーの開催

作成したガイドラインの普及を目的に、東京と大阪で普及啓発セミナーを開催。セミナーでは、「ガイドラインの活用ポイント」「派遣会社による企業事例の紹介」などを紹介し、参加者から大変ご好評をいただきました。



セミナー会場での清水教授



東京セミナー会場の様子

TCSAより

ガイドラインは会員各社に配布します。セミナーを収録したビデオも用意していますので、視聴をご希望の方はお気軽にTCSA事務局までお問い合わせください。

(株)ジャッツ所属 専任ツアーコンダクター

茂木 隆一氏

昨年初めて会員会社に所属する2名のツアーコンダクターが、国土交通大臣に表彰されました。プロフェッショナルとして添乗業務が認められたことが、この道一筋で活躍しておられる多くの方々の励みになると思い、38年間5,000日以上添乗経験を持つ茂木さんにインタビューさせていただきました。

三橋専務理事(以下 三橋) この度は大臣表彰まことにおめでとうございます。協会としてもうれしゅうございます。心よりお祝い申し上げます。

茂木隆一氏(以下 茂木) ありがとうございます。今回一緒に受賞した高木英二さんは、初期に所属していた会社の同僚で、今でも良き友人としてお付き合いしています。今回同時受賞できたことが特に感慨深い思いです。



プロフェッショナル・ツアーコンダクター 1期生の誕生

三橋 茂木さんはたしか運輸局長表彰も1回目の受賞でいらっしゃいましたね。

茂木 はい。平成17年の運輸局長表彰もTCSAとして1回目の表彰だとうかがいました。初めてづくしの受賞で大変うれしく思っております。

三橋 添乗専門職として何十年の間続けてこられたのは、周囲のご理解とご支援あってこそと思います。特に、お子様が小さいころは、父親参観とか運動会など学校の行事と添乗が重なってしまうこともおありだったと思います。ご家族のサポートについてまず、お聞かせいただけますか。

茂木 当時は年間200日以上添乗に出ていましたので、子供の行事などに参加できなかったことは少し心残りではあります。ただ、私は本当に添乗が好きなので、家族も好きなことをやらせ

たほうがよいという理解だったのでしょう。女房は元々旅行業界の人間だったので、その辺りは理解があったと思います。

家族の支援はもちろんですが、派遣元の支援も大きいと思います。自分が添乗に出ているとき、次の添乗の下準備を派遣元の担当者がしてくれていたのも、自分は安心して添乗に専念できたのだと感謝しています。

三橋 茂木さんはジャッツの1期生とうかがいましたが、何年入社でいらっしゃるのですか。

茂木 1983年です。来年で丸30年になります。

三橋 その間に“もう添乗を辞めたい”と思われたり、転職を考えられたりスランプにはなりませんでしたか。

茂木 添乗そのものが自分自身の生き方になっているところがあって、好きでやってきたため、さほどのスランプは感じなかったですね。

三橋 添乗が続くと疲れたと感じたり、次は休みたいと思ったりなさらなかったのでしょうか。

茂木 ええ、新たに次の添乗に出て行く楽しみのほうが大きく、そのように感じたことは無かったですね。ただ、添乗に出ないときの日常生活の連続性がどうしても分断されてしまいます。それが辛いと思うことはあります。しかし、それよりも次の添乗のパンフレットを見て、自分もお客様のような感覚になり、添乗が楽しみになる気持ちのほうが大きいですね。

三橋 茂木さんにとって添乗のお仕事はまさに“天職”でいらっしゃいますね。

茂木 そんな風に次の添乗のパンフレットを見て、楽しい気持ちがなくなったら添乗は続けられないと思います。

三橋 まさにプロフェッショナルの鏡のようであられるのですね。そんな茂木さんには多くのファンが居られると思いますが、その方々からツアーのリクエストは多いと思いますが…。

茂木 リクエストはよくいただきますが、その方々だけのための完全なオーダーメイドですと旅行費用が高くなってしまうため、それに見合ったパッケージツアーを探して私が添乗するといったことはあります。日本旅行の場合は、お客様との関係が“いい距離感”であるので、一般募集のお客様とリクエストのお客様が混在しても不都合が生じていないのではないかと思います。これは会社のポリシーの問題なのではないかと…。

三橋 プロのツアーコンダクターの方は、お客様が初めて参加される方であろうが、リピーターであろうが全てのお客様に満足していただけるような添乗をされますね。それでなければ支持されていかないでしょうし、それをなされているからご自身も添乗を楽しめる余裕が持てるのでしょうか。

これから先、健康状態もよろしければあと何年くらい添乗をお続けになりたいですか。

茂木 自分は最高齢に近い部類でしょうが、いつまで続けられるかは分かりません。ただし、会社(ジャッツ)の規定に定年はないため、続けられるうちはがんばろうと思っています。

三橋 奥様をご旅行にお連れになったことはおありでいらっしゃいますか。

茂木 家族旅行でハワイなどへ年に1回は行くようにしています。今は安いパッケージツアーも多く出ています。今後はそういったツアーに女房と2人で行ってみたいと思っています。

三橋 この職業を通して最大の収穫は何でしょうか。

茂木 海外添乗で美術、歴史、文化に触れる機会が多く、そういったことに造詣が深くなったことや、海外の四季の移り変わりを毎年感じられる醍醐味じゃないでしょうか。また、添乗と添乗の合間に少し時間が取れ、自分の趣味などに時間を費やすことができるのもこの仕事のよいところでもあります。私は畑仕事が好きなので、もっぱらそれに時間を費やしています。ただ、添乗に出ているときはその世話ができないため、添乗から帰ってくるとまず草刈りから始めます(笑)。

三橋 そのようなご趣味をお持ちとは…。東日本大震災のときは添乗の本数も少なかったと思いますが、その間は畑仕事に思い切り精を出していらっしゃったのですか。

茂木 震災以降は確かにツアーの本数も減りましたが、何とか月1本くらいは添乗に出させていただきました。

三橋 海外添乗を専門になさっていらっしゃるの悩みは？

茂木 難しい質問ですね。やはり海外にすることが多くなるので日本にいますとき、生活の連続性が分断されてしまうことです。長期プランでゆっくり何か学ぶようなことが不可能な点が悩みといえば悩みでした。



三橋 茂木さんが今まで培ってこられたノウハウや知識などを、今後どのような分野で活かしていきたいと思っています。いらっしゃいますか。

茂木 我々はサービス業に身を置いております。今後サービス業においてそれを活かしていくことがベストだと思います。自分の場合、得た知識を活かせるかどうかは分かりませんが、女房が鍼灸の資格を持っていて、自分もその分野に興味があるものですから、鍼灸・整体の治療院をやりたいという夢は持っています。

三橋 添乗で疲れた身体を奥様に癒していただくこともおありでいらっしゃるのですか。

茂木 いつも熱いお灸を据えられています(笑)。

三橋 すてきな夢が叶うことを心より願っております。話は変わりますが、後輩の方々へのアドバイスをいただけますか。

添乗専門職の「人権」が守られる環境整備を期待!

茂木 将来的に添乗業務が無くなるということはないでしょうから、添乗業務を長く続けられるのであれば、自分に合った旅行会社を見つけることが大事だと思います。例えば、お客様からすれば至れり尽くせりの“べったりサービス”を提供している旅行会社の添乗が合う人もいれば、旅程管理をきちんとしてくれればよいという旅行会社が合う人もいます。自分の添乗スタイルに適した旅行会社を見つけることが重要です。昔のパッケージツアーでは団体の“和”が保たれればそれでよかった部分もありましたが、今はお客様個々に求めるものが違うので、対応が難しくなった部分もあります。添乗員としてそういったトレンドをキャッチしてフレキシブルに、個々に対応していく能力が最近は特に求められていると思います。

三橋 昨今、航空会社の方針でグループチェックインから個人チェックインに変わったことによって、グループの席が希望通りに取りにくくなっています。その辺はどのように対応していらっしゃいますか。

茂木 非常に悩ましいところです。アンケートでも往復の座席の取れ方で添乗員の評価が如実に現れます。これは添乗員みんな悩んでいます。一方でどうしようもない問題でもありますので、お客様にはご理解いただくしかないのではないのでしょうか。ただ、旅行商品によってはペアシート確約もあり、そういったツアーでは助かっています。

三橋 最後に協会に対してご要望をお聞かせいただけますか。

茂木 協会として添乗員の働きやすい環境づくりにご尽力されていることはと思いますが、待遇も含めてより一層改善にご努力いただくことを望みます。以前、自分自身が経験したことなのですが、海外のホテルでお客様がセーフティーボックスに預けたものが盗難にあい、その責任を添乗員に転嫁させられたことがありました。もっと添乗員の「人権」が守られるよう併せて環境改善に取り組んでいただければと思います。

三橋 ツアーコンダクターの方々の働きやすい環境づくり、プロとして誇りを持って長く働くことができるよう環境整備していくことが協会の最大のミッションです。今後も一層の努力をしてまいります。本日は貴重なお話をありがとうございました。



“添乗専門職の「人権」が守られるような環境づくり”
この古くて新しい宿題の重みを痛感するインタビューでした。



「国内・総合旅行業務取扱管理者」試験対策講座の実施

旅行業界の国家資格である「旅行業務取扱管理者」資格取得に向けた試験対策講座を実施いたします。TCSA正会員所属の方は会員割引料金で受講でき、また、受講者の希望に合わせて受講するコースを選ぶことができます。ツアーコンダクターの方々のスキルアップにも繋がる内容となっております。この機会にぜひチャレンジしてください！

1. 試験対策講座の種類

希望に合わせてコースを選ぶことができます。

国内 or 総合基本コース 国内もしくは総合旅行業務取扱管理者資格を目指す方のためのスタンダードコース

国内 or 総合直前集中コース 学習する時間があまり取れない方におすすめするコースで、短期間で科目ごとにポイントを絞り込んで講義します(基本コースとセットで受講するとさらに理解が深まります)。
※基本コースとセットでの申し込みは受講料が割引となります。

総合国内免除コース 国内旅行業務取扱管理者資格をすでに取得している方が総合を目指す際に適したコース

科目選択コース 過去に取扱管理者資格を受験し、「科目合格となった方」および苦手な科目だけを学習したい方に適したコース



2. 実施日程・カリキュラム

6月16日～9月16日の間の土曜日および日曜日に実施(各コースにより日程が異なります。日程の詳細は所属会社もしくはTCSA事務局までお問い合わせください)

※講習日に出席できない日があった場合は、講義をビデオ撮りしたものを視聴していただきます。

3. 受講料

コース別受講料

コース名	TCSA正会員	非会員
国内基本コース	35,000円	45,000円
国内直前集中コース	20,000円	30,000円
総合基本コース	55,000円	65,000円
総合直前集中コース	20,000円	30,000円
総合国内免除コース	30,000円	40,000円

科目選択

コース名	TCSA正会員	非会員
科目選択コース(法令)	7,000円	10,000円
科目選択コース(約款)	12,000円	15,000円
科目選択コース(国内旅行実務)	16,000円	20,000円
科目選択コース(海外旅行実務)	20,000円	30,000円

コースセット割引

コース名	TCSA正会員	非会員
国内基本コース +直前集中コース	45,000円	60,000円
総合基本コース +直前集中コース	65,000円	80,000円

※受講料はすべて教材費、消費税込

4. 最少催行人員

各コースともに10名

5. 定員

40名(定員になり次第締め切ります)

6. 申込方法

所属会社もしくはTCSA事務局までお問い合わせください。

7. 申込締切日

平成24年5月31日(木)

8. 講座実施会場

(社)日本添乗サービス協会 3階 研修室

9. 問合せ先申込み

(社)日本添乗サービス協会 担当:中込 〒105-0011 東京都港区芝公園2-11-17 朝井ビル4階
電話:03-3432-6032 FAX:03-3431-8698
Eメール:gen@tcsa.or.jp

「旅程管理研修」5月～6月の実施日程のお知らせ



地 区	実施コース	実施日程	申込締切日
札 幌	国内研修	6月 19日(火)・20日(水)	6月 12日(火)
東 京	国内・総合研修	5月 8日(火)～10日(木)	5月 1日(火)
	国内研修	5月 22日(火)・23日(水)	5月 15日(火)
	国内・総合研修	6月 12日(火)～14日(木)	6月 5日(火)
名古屋	国内研修	5月 29日(火)・30日(水)	5月 22日(火)
大 阪	国内研修	5月 15日(火)・16日(水)	5月 8日(火)
	国内研修	6月 12日(火)・13日(水)	6月 5日(火)
福 岡	国内研修	5月 22日(火)・23日(水)	5月 15日(火)

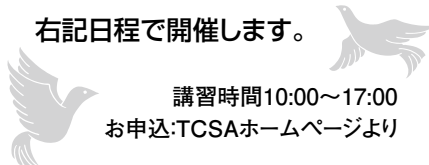
※「国内・総合研修」コースで実施する場合、国内コースは1日目・2日目の受講となります。

受講前日までであれば受講取消料は無料、もしくは受講日程延期の対応をいたします。

研修催行確定（締め切り時点で国内・総合コース5名以上申込）の場合、申込締切日以降であっても基礎教本相当研修修了者については、受講前日まで受付いたします。

派遣元責任者講習会 スケジュール（5月～6月）

右記日程で開催します。



講習時間10:00～17:00

お申込:TCSAホームページより

開催地	開催日	受付状況	会場
北海道	5月 10日(木)	受付中	北海道建設会館
大 阪	5月 16日(水)	受付中	エル大阪
愛 知	6月 14日(木)	受付中	ウインクあいち
福 岡	6月 28日(木)	受付中	天神ビル

2000日添乗員のコッソリ奮闘記

連載 (44)



津波の被災地を添乗して感じた、プロとしての心構え

(株)旅行総研

齋藤 恵さん

平成23年度、国内1級「添乗員能力資格認定試験」の小論文から優秀作を掲載

今年の元旦は、宮城県南三陸町のある宿で迎えた。太平洋から昇る初日の出に向い1年の平穏を祈った。前日の大晦日は松島湾を巡るコースで、かつて見た景色とほぼ変わらない姿で安心していましたが、ホテルを出発して南三陸町の中心部に近づくにつれ呆然とした。瓦れきの山、土台しか残っていない家の跡、積み重ねられた廃車。映像では見ていたが実際に目の当りにして声も出なかった。役場防災課の女性職員が、津波にのまれる最期まで避難するように町内放送をしていたのはこの町だった。

町を通り過ぎながら自分はいかに無力な存在であるか痛感した。私が仕事で震災時この場所にいたら何ができたのだろうか。自分の命を守る事で精一杯だったと思う。溺れる人を助けることも、崩れた家から救い出すこともきっとできなかっただろう。

では、私達は何ができるだろうか。忘れたころにやってくるという災難に対して「もしものことが起きたら」といつも心の中に思い準備する事はできる。実際に起こったトラブルは、仲間の経験談などの

情報を共有することもできる。それらの蓄積を応用して、最善の方法を考えることを日々の仕事の中で習慣づける。結局は普段からの積み重ねと広く関心を持つことが大切なのだと思う。

地震が起きたら高台へ逃げるのが常識の町でも、慣れから逃げ遅れた人が不幸にも多勢いた。添乗業務の中でも慣れは恐ろしい。「初心忘るべからず」と常に肝に銘じているが、いつの間にか慣れ過ぎて旅に対して何の感動もなくなることがないようにしたい。お客様がその旅行を思い出すとき、旅の1ページの中のアンダーラインのような、鮮やかに記憶が蘇る手助けとなる存在でありたいと願う。プロとしての知識はもちろんであるが、「人」としての力、特にいざという時の底力をつけていきたい。

この人と一緒に旅ができてよかったと思っていただけるように、日頃からいろいろな引出しを準備して勉強したいと思う。旅行を楽しんだお客様が無事に家族の元に帰っていただくことを一番の責任と考え、危機管理、安全第一を優先して日頃から鋭敏に感じることができるよう注意したいと強く思う。

TCSA だより

「25年のあゆみ」発行

TCSA25周年を迎え協会の四半世紀を振り返る「25年のあゆみ」を編集し、全48ページをホームページに掲載しました。冊子の巻頭を飾る座談会では前観光庁長官、JATA会長、JTB社長、TCSA会長から貴重なご提言を数々いただき、今後の協会活動に活かしてまいります。25年の歴史やデータボックスなども記載されていますので一読ください。



会員動向

正会員

●入会

(株)TCA北海道(会員番号113号)
代表取締役社長 柿内 裕一
〒060-0004
札幌市中央区北4条西4丁目1番地
電話:011-221-3818
FAX:011-221-7474

●退会

(株)エス・ピー・アイ(会員番号036号)
代表者 篠塚 恭一

●社名変更

(株)エステーシー
新社名:(株)シグマ観光サービス

●住所変更

(株)ヒト・コミュニケーションズ
新住所:〒170-0013
東京都豊島区東池袋1-9-6 ヒトコムjobビル
*電話・FAX番号は変更なし
(株)日旅中部エンタープライズ
新住所:〒460-0008
名古屋市中区栄2-11-30 セントラルビル6階
*電話・FAX番号は変更なし

賛助会員

●入会

(株)エス・ピー・アイ(会員番号067号)
代表者 篠塚 恭一
〒150-0043
東京都渋谷区道玄坂1-19-13 トップビル並木ビル10階
電話:03-6415-6480
FAX:03-6415-6488

●住所変更

財団法人 日本交通公社
新住所:〒100-0004
東京都千代田区大手町2-6-1 朝日生命大手町ビル17階
新電話番号:03-5255-6071
新FAX番号:03-5255-6076
近畿日本ツーリスト株式会社
新住所:〒101-8641
東京都千代田区東神田1-7-8 東神田フコク生命ビル
新電話番号:03-6891-6805
新FAX番号:03-6891-6878
(株)ツーリストサービス北海道
新住所:〒060-0003
札幌市中央区北3条西2丁目2-1 日通札幌ビル7階
*電話・FAX番号は変更なし

委員委嘱変え

●添乗員厚生委員会

(株)TEI 遠藤 進一郎 (添乗営業グループ課長)

●添乗業務改善委員会

(株)TEI 富田 健一郎 (添乗営業グループ課長)
(株)ジャッツ 岩崎 裕幸 (東京TCセンター所長)

(((編集後記)))

本号特集で高齢化するベテラン添乗員の戦力化に向けたガイドラインについて、添乗員の高齢化と活用に向けた6項目が提示されている。ベテラン添乗員は経験豊富が強みになる。しかし、高齢に伴い自分のスタイルに固執したり、周りの意見に耳を傾けず頑固で横柄な態度をとるようになる人も少なくない。自分自身もそうであり、娘からよく指摘されている。知らない間に高齢者の阻害要因になっているのかもしれない。参考にしたい。(M.B)

社団法人 日本添乗サービス協会
〒105-0011 東京都港区芝公園2-11-17 朝井ビル4階
TEL(03)3432-6032・FAX(03)3431-8698
E-mail tcsa@tcsa.or.jp
URL <http://www.tcsa.or.jp/>